

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自主訓練と消防署の協力の下、昼を想定した避難訓練が行われている。22年度は5月、7月、9月、11月と行って室内での避難訓練(利用者を毛布とかで運ぶ)も7月に行っている。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800350&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」は、法人が運営する訪問介護施設や通所施設と共に自然豊かな広い敷地に立地している。代表者は町役場との協力関係を深めながら、町の福祉面に大きな力を注いでいる。平屋建ての利便性を活かし、各ユニットの利用者や職員は渡り廊下を歩き来して交流を行うなど、管理者と職員は「ゆったりとした流れの中で、楽しく一緒に、認知症であっても、普通に生活できること」という法人の理念の下に個々に応じた温かなケアを行っている。共用空間や居室の清掃にも配慮して、気持ちよく過ごせるように支援している。各利用者は個別に自治会に加入して各種行事に参加したり、事業所の夏祭りやクリスマス会に多数の地域住民が訪れるなど、地域との交流も積極的に行われている。前回の取り組み項目にも積極的に取り組み、事業所独自の介護理念を作成したり各職員が年間目標を掲げて日々のケアに取り組むなど、常にケアの向上を目指している事業所である。医療面の対応も充実しており、かかりつけ医の受診支援をはじめ、看取りに関する事業所方針や対応を文書化して看取りを行うなど、家族にも安心感を与えている。利用者は職員と楽しく会話を交わしながら、笑顔で穏やかな毎日を過ごしている。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりとした流れの中で楽しく一緒に認知症であっても普通に生活できる事」という法人の介護理念とともに「住み慣れた地域社会の一つと考え自立した暮らしの支援をする」と言う理念の説明文がパンフレットに掲載されている	法人の介護理念「普通に生活できること」という項目に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を明記してパンフレットに掲載し、各ユニットにも掲示している。今年度は全職員で事業所独自の介護理念を作成して掲示し、会議などで意識付けを行っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念は事業所の玄関に入って左側にすぐに見やすい場所や事務所に掲示しておりパンフレットにも記載しています。分かりやすく覚えやすい理念であり職員は勤務に就く際に申し送りに理念を復唱し日々理念に基づいてケアサービスに取り組んでいます	利用者が個別に自治会に加入し、お花見や敬老会など個別に案内状をもらって参加したり、参加できない時もプレゼントを届けてもらうなど地域の一員として交流が行われている。事業所の誕生会に近隣住民が訪れたり、夏祭りやクリスマス会には多数の地域住民や大正琴などのボランティアも参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事などは積極的に参加する様にしていますし、事業所の行事には花見、夏祭り、クリスマス等に自治会役員に参加頂いています		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った事を各ホームのミーティングで発表を行い職員への内容の理解又は意見の場をもうけています	運営推進会議は、町役場職員、自治会役員、看護師、家族などが参加して外部評価の報告や防災訓練について意見交換を行っている。行事に合わせて土日に開催するなど、工夫して家族の参加を促しているがまだ十分な参加は得られていない。	年間計画を作成して定期開催し、家族に議事録を送付することで運営推進会議への関心を深めてもらい、家族の参加と更なる意見収集に繋がるように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その時々によって地域連合の人との情報の共有を行っていますサービスの質の向上をはかれる様、努力に努めています	管理者は認定調査員や生活保護担当職員が来訪した時に事業所の状況を話して情報交換を行い、日々のケアに活かしている。代表者が定期的に訪問したり、事務的手続きには法人の担当職員が役場を訪問して常に協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を2ヶ月に一回開きその都度ミーティングで発表しスタッフ全員で取り組み利用者の意思を尊重し過ごして頂いています	法人でマニュアルを作成し、身体拘束委員会を4ヶ月毎に開催している。委員会の内容は会議で報告して、再確認している。「10の禁句」を作成して、管理者は気になる言葉かけがある時はその都度注意したり会議で指導している。内玄関にセンサーを設置して利用者の出入りを把握して安全面に配慮することで、鍵をかけないケアを実施している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会を作り拘束や虐待にならない様に学んだりスタッフ全員で取り組んでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の意思が第一だが権利擁護事業を利用出来るよう支援し、その為にも職員が制度を理解出来るよう勉強をさらに行う		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の契約につきましては最初の入所する段階で十分な説明を行っています。その旨をご家族の方も把握して頂いた上での契約解約となっています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、苦情は適切に対応出来る様にしご家族と年に何度か意見交換や不満、苦情について話が出来る場を設けている	家族には事業所のサービス向上のために意見を言って欲しいことを伝えて言いやすい環境作りに配慮したり、運営推進会議や普段の来訪時、また電話などで利用者の様子を話して意見や要望を聞くようにしている。家族参加の行事後にはアンケートを実施して、次回に役立てるようにしている。	行事アンケートに合わせて、運営に関する家族アンケートなどを実施して、更に家族の意見収集に取り組み日々のケアに活かされるように期待したい。また、家族の意見が分かりやすく記録化されるように期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等を通じ意見の反映の場を作り必要な事は実践している。管理者が月1回集まり意見の反映の場としている	毎月3～4回、ユニット合同でミーティングを行い意見交換を行っている。行事などは職員が中心になって取り組み、各職員の提案が活かされている。管理者は職員と日々会話をすることで、職員の意見を聞くように配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題のある時を含め普段より話し合いを出来る環境をつくる様に努め働きやすい職場をめざし努力しています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を行い職員のレベルアップを計り、実技の講習会を月一回行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に何度か地域の同業者と交流、意見交換を出来る場があり、交流を通してより良いケアを提供出来る様サービスの質の向上に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気を作り、不安な事や求めている事等を傾聴し職員一同信頼関係作りを大切にしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい態度や対応を心掛け家族の不安や困っている事などを取り除く事が出来る様傾聴の姿勢を大切にしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居だけでなく在宅とか、他の生活の可能性についても話し合いの場を設けている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく相手の状況を見極めながら出来る事は一緒に楽しく行っていただく		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私達がすべてを受け入れるのではなく、家族でなくては出来ない事もあると言う事を話させていただく		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	より良い家族関係が保たれる様、話しを伺い支援しています	利用者により、以前住んでいた近くの友人や宗教関係の知人が来訪したり、居室から個別に電話をかけるなどの交流が行われている。買い物しながら一緒にドライブして自宅を見に行ったり、馴染みの場所との関係も可能な限り継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしを共にする者同士、良い関係がきずける様、時には介護者が話しのきっかけ作りをさせていただいています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もイベント等に参加して頂き、良き関係を保っています		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望等、すぐに対応しています。困難な時はチームで話し合い出来る限り対応させて頂いています	利用開始時に家族から得た趣味や好みなどの情報や、日々のケアで得られた思いや意向に沿ってケアができるように職員間で情報共有している。会話で思いの把握が難しい時は、簡単な質問をして意向を把握したり表情、動作から把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活パターンを大切に御家族からも以前の生活情報を聞いています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に様子観察を行い無理なく安心して頂ける様、努めています		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアとしてミーティング等、話し合いの場をもち共有する事に努めています。御家族にも状況説明し要望を聞く様努めています	新規利用者の介護計画は家族や医師などの関係者から情報を得て作成し、1週間～10日で見直しを行っている。定期的な見直しは3ヶ月毎に各職員の意見や家族の意向を基に計画作成担当者が作成して、現状に即した介護計画を作成している。家族への説明と共に、利用者に応じて本人にも説明を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子観察を常時行い、記録を残し申し送り等、チームとして話し合っています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを主としながらも新たなニーズに対応出来る様、チームとして話し合っています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア協力を頂いて支援に努めています。消化訓練も参加して頂いています		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応して頂き、その都度報告しています。御家族にもその都度説明させて頂いています	本人や家族の意向に沿って利用開始前からのかかりつけ医の継続は可能であり、事業所で受診支援を行い医師と連携して適切な医療が受けられるように配慮している。協力医療機関の内科医が2週間毎、歯科医による往診が随時行われている。医療連携日誌で医師と情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に一度、訪問診療に来てくれています。その他、緊急の場合も訪問して頂いております		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には時間が許さかぎりお見舞いに行く様にしています。医師とは情報交換を行い早期退院出来る様にしております		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに向け家族・医師との連携を密にして安心して頂ける様、スタッフ一同努力しております。変化があるとその都度家族に連絡して本人、家族に安心していただける様心掛けている	法人として、死亡時や死亡後の援助などを含めた「ターミナル指針」を作成して利用開始時に説明している。また「終末に関する指定書」を作成して利用開始時に本人や家族の意向を確認し、変化に応じて方針を再確認して共有している。看取りの実績も多く、職員も看取りに関して対応を学んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を定期的に受けて学習しています		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上、避難訓練を実施し終わった後、話し合い震度4以上の時ホームへ集合するようになっていく	年間2回、消防署の指導の下に避難訓練を実施すると共に、昼夜を想定した自主訓練をほぼ毎月行っている。法人として地震や風水害対策マニュアルも整備して対応を確認している。職員は定期的に救急救命訓練講習を受講している。	事業所として災害備蓄品の整備と地域住民の役割分担を明確にしていく意向なので、その取り組みを期待したい。また、避難訓練に近隣住民の参加が得られるように期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が思い思いに過ごせる居場所を作っております	現実的でない利用者のお話にも真摯な姿勢で話を聞くように職員を指導している。名前は家族にも確認し、本人の心地よい呼び方にしている。面会簿は単票形式に変更し、個人情報などは適切に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でもスタッフが決めず自己決定の出来る質問をしております		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望は叶えてあげてないと思いますが(健康状態の面で)それ以外は否定する事も無いよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧したり散歩したりとその人の希望に沿って支援しております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや下膳など利用者に来ることは手伝ってもらっており利用者と職員は会話しながら楽しく食事を摂っている。誕生日には好物のメニューを取り入れている	職員は当日に食材を見て献立を決め、時には町の管理栄養士にチェックしてもらい栄養バランスに配慮した食事を提供している。誕生日には希望の料理を作り、仕出し弁当や外食を楽しんでいる。また、ホームの新鮮な野菜類を食卓に添えている。職員は利用者の能力を見極めて下膳や後片付けを一緒にいき、談笑しながら食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に沿って食事量には気をつけています。水分量チェック表をつけ水分摂取量の不足にならない様に努めています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きで口内の清潔保持に努めています		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て排泄の声かけをしたり、清拭をさせて頂き気持ちの良い介助に努めております	必要な場合は排泄パターンを記録し、日中には声かけなどで布の下着で過ごす利用者が多い。夜間は衛生用品を選び、できるだけトイレに誘導している。入居後に職員の努力でオムツがとれた例もあり、自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫と軽い運動等を行って予防に努め便が滞る時は利用者に合う下剤等を使用させて頂いています		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後の時間帯に週2回以上入浴できるように支援しているが利用者が希望すれば午前中でも入浴することができる	いつでも入浴ができる体勢を取っているが、ある程度入浴日を決めている。午前、午後と利用者の要望に沿って、一人週2回入浴を支援している。利用者の身体的なニーズから浴室の広い別ユニットの浴室を借りて柔軟に対応することもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をしていただいたり、入浴、廊下を歩く等、運動をし夜間はぐっすり眠れるように支援をしています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の使用薬をファイルし、スタッフが確認し状況に応じて医療機関と相談をしています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと利用者全員で体操をしたり、紙しばい、本を読んだり1日を元気に過ごせるようにレクリエーションを楽しんでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日には外気浴したり散歩に行ったりして頂いています。ドライブも時折しております	天候を見て近くの公園や隣町の公園を散歩したり、買い物に出かけるなど毎日のように外出している。車椅子使用の方も一緒に出かけ外気に触れている。車で温泉旅行や季節の外出行事を楽しんでいる。冬季も公民館に出かけてクリスマス会や催しを楽しむ機会がある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている人にはなるべく自由に使って頂いています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われたら電話をかけ手紙はスタッフがポストまで出しに行ったり援助させて頂いています		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花などを飾ったり、家庭的な雰囲気を出すように心掛けております	居間には畳敷きのコーナーがあり、また季節の花や観葉植物、本、縫いぐるみなどで、家庭的な雰囲気を作り出している。組み合わせの食卓テーブルは少人数で座ることができ、小さな穴を開けて利用者の立ち上がりにも工夫されている。共用空間のトイレや洗面台、浴室は利用者の目線で改造されている。全体的に掃除が行き届き、温湿度の調整もあり、心地よい環境になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が思い思いに過ごせる場所がある。畳のスペースや渡り廊下に長椅子を置き対応しています		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物や思い出の物などを持ってきて頂き使用して頂いています	居室内にはクローゼットと棚が取り付けられてあり、利用者の事情に応じては家具類なども事業所で用意している。居室には、仏壇や冷蔵庫、タンスなどの馴染みの家具類を持ち込み、観葉植物や家族の写真、装飾で心地よい空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入口に本人の顔写真を貼り付けてます。脱衣所の入口に張り紙をしています		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800350		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「栗ちゃんの家」		
所在地	日高郡新ひだか町静内ときわ町3丁目12番25号		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットで職員同士を半日、又は1日移動する事で相互の入居者を理解し緊急時等、速やかに対応できる様にしている
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800350&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者、職員は共に理念を共有し日々のケア実践に取り組んでいる		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は散歩や買い物時、地域の人々と積極的に挨拶を交わすようにしている。自治会等にも加入し利用者の力量に応じて行事等に参加しています		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独居者の生活見学者の受け入れ		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を通じ理解をしてもらっている		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合とは情報の共有を行っている。町とはパートナーとしての認識を持っている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会での話し合い。利用者一人一人に合った介護、身体拘束をしない様、取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り拘束にならぬよう学んだり事業検討する防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>本人の意思を第一に考え、権利擁護事業を利用して頂けるように支援している</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約以外でも、どなたでも来訪された時は十分に説明し理解を得ています</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何回か家族の方とホームに来られた時などに意見交換等を行う事が多々あり、話しをする機会を設け意見を運営に反映させています</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見や提案を聞く機会を年に何回か設け、その度出された意見をもとに運営に反映させています</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の意見や提案を聞く機会を多くし、要望に対して対応できる様、勤務の調整を行っています</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修や講習会、技術講習など受けレベルアップに努めています</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相互訪問し、交流を計っています</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の状況に応じて対応をしている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人、家族よりこれまでの生活歴を聞き理解を深めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホーム、在宅での生活での暮らし方もあると話している</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯干しやたたみ等、一緒にし共にしている関係を保っている</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の面会の機会も大切だと伝えている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>出来る限り自室に馴染み深い物や大切にしている物を置いている</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の誕生会やホームでの行事により多く参加している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム、会社でのイベントがあれば招待状等を出し交流に努めています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活出来る様、なるべく本人の要望が叶えられる様努めています		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	茶碗拭き等、手伝って頂き馴染みのある生活環境を造っていける様努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大体、把握できていると思います。心身状況はその日その日によりけりなのでその日に合った対応をさせて頂いています		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランについては担当の者がいてその利用者の状況をなるべく把握しケアプラン作成にあたっています		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別にケアの状況を記録しています。情報交換もスタッフ内では実践されていると思います		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況をみて、スタッフ間で話し合い状況に応じたサービスをさせて頂いています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方をお呼びし読み聞かせ、レク、大正琴等の楽しみを造り支援させて頂いています		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携の医療がある為、何かあれば対応出来るような状況になっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談をしています。体調の変化の事を話しアドバイスもらっている。他の医療機関の看護師も必要に応じて対応してくれている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には出来るだけ病院へ面会に行くようにしている。病院、家族等の情報交換が出来る様になっている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに向け医療、家族等と連携し対応を考えている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や急変に備えマニュアルを作成し研修、訓練を行っています		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を行い、災害時連絡網を作成、震度4以上でスタッフ一同集合することになっている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大きな声で対応しない		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い人には耳の側でゆっくり、はっきり話し意思を伝える		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けないようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り本人の希望にそえるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に会話をしながら楽しく食事をしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	過食、水分不足等の場合は声かけやスタッフの方で配慮している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ポータブルトイレの使用。トイレ利用者を把握し時間を見て誘導等を行っている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食等の工夫を行い適度の運動を働きかけている。最終手段として薬の服用を考慮する		
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方への言葉かけ工夫等をし、その人にあった入浴を心がけている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は温かい飲み物をすすめたり、ゆっくり会話をしたりして対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルは見やすい所に置き体調の変化があった時には、主治医の指示を仰ぐ		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり、洗濯物たたみなどをしていただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や車に乗っていきドライブはされています		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が少しお金を持っていたいとのことでは家族に承諾の上で持っている利用者はいます		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にされていませんがご家族から電話が来られた時には本人と話をされています。又、スタッフが代理して生活状況など手紙などで知らせています		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間には花など飾ったり季節感を感じるし、また食事でもその都度の季節での食料も使い食事を楽しめるメニューにも配慮されていると思います		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニットと言う事もあり利用者さんたちも行ったり来たりして自分の居場所を見つけたりされています。共用の空間には長椅子が随所に設置されています		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入口に顔写真を表札としてかけることで利用者が自分の部屋と認識しやすいように工夫をしています。利用者が使いたないテーブル、椅子、仏壇、壁には家族との写真などが飾られています		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている		

目標達成計画

事業所名 栗ちゃんの家

作成日：平成 23年 5月 3日

市町村受理日：平成 23年 5月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加人数が少ない	自治会の方や地域近隣の方の参加	行事への参加の文章での連絡。ホーム内での行事等の公開。地域活動への参加。一年間の運営推進会議の予定と栗ちゃんを家の年間計画と共に案内を出し又、開催事前案内、開催後内容報告をします。	23年4月 、 24年3月
2	10	ご家族との話し合う機会が少ない	ご家族の意見、要望の活発な交換	・ホームの便りを使い呼びかける ・来訪時の交流 ・利用者を交えての話し合い ・年間予定を伝え参加出来る時、参加をお願いして行きます	23年4月 、 24年3月
3	35	避難訓練にあたり近辺の方の協力が無い	地域住民も参加した避難訓練	・避難訓練の内容等を文章化し回覧板等を利用し参加を求めると共に町内会の避難訓練にも参加し、ホームの避難訓練も町内会を通して協力をお願いして行きます	23年4月 、 24年3月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。